

防災のための話し合いを家庭で地域で

## 怖いのは 地震の二次災害

9月1日 防災の日



「天災は忘れたころにやってくる」といわれますが、とりわけ地震はいつ起こるかわかりません。

日本は世界でも有数の地震多発国です。大正十二年の関東大地震以後の約六十年間をみても、震度六以上の地震は十回も起きています。

八月三十日から九月五日までの一週間は『防災週間』、そして九月一日は『防災の日』です。全国各地で防災訓練が繰り広げられますが、あなたのご家庭でも、いつ地震が起きてもあわてないように、ぜひ『家族防災会議』を開いてみましょう。

### 家にいるとき

#### グラツときたら!?

グラグラツときたら、「それ逃げろっ!」と、本能的に行動したくなりますが、これは避けなければなりません。

屋外へ飛び出したとたんに、瓦やガラス、壁などの危険物がシャワーのように降り注ぐからです。

グラツときたら、できる限り、ガスコンロやストーブなどの火を消し、すばやくテーブルやベッドなどの下に身をかくすことです。その際は、座ぶとんやカバン、本などで頭部を守りましょう。

### あわてず消火活動を

「地震だ!火を消せ!」と叫ぶことは、自分自身を冷静にするきっかけにもなり、家庭や隣近所への呼びかけにもなります。

あの関東大地震では十四万二千八百七人という尊い生命が奪われましたが、火災さえ発生しなかつたらあれほどの大惨事にならずにすんだといわれます。

地震が起こったら火を出さない、また火事が出ても、初期のうちに消し止める覚悟を、よくよく身に刻み込んでおきたいものです。

それには、初期消火、つまりなるべく火が小さいうちに消し止めることがポイントです。

火災は状況により異なりますが、火元が周囲の可燃物(カーテン、ふすまなど)へ、さらに壁から天井へと燃えうつるまでには三〜五分かかります。

ですから、大揺れ(約一分)がおさまってから消しても遅くはないのです。あわてずに火を消すことが肝心です。

### 外出先で グラツときたら!?

外出先で地震に遭ったら、どのように行動したらいいのでしょうか。ふだんは沈着冷静な人でも、群集心理にあおられて、パニックになってしまう場合が多いものです。

ふだんから、次のような対処の仕方を、胸にいいきかせておきましょう。

#### ビル街にいたとき

●ビルの窓ガラスや看板、壁にはりつけたレンガやタイルが降ってきます。コートやカバン、買物袋で頭部を守ることです。

●倒れかかっている電柱、都市ガスやプロパンガスが漏れている所、そして衝突したクルマが炎上している所から速やかに遠ざかることです。

#### 地下街にいたとき

●火災が発生すると、煙や有毒ガスが恐ろしいほどの速さで充満します。

●出火を見つけたときは、近くの消火器などで、みんなで協力して消火することです。

#### 木造住宅街にいたとき

●古い建物、間口が広い建物は、倒れる確率が高いので、すぐに遠ざかることです。

●屋根瓦の落下、ブロック塀や石塀、門柱が倒れ、ケガをしたり、ときには死ぬケースもあります。遠ざかるにこしたことはありません。



地震のあとには火を出さないこと